第１回新潟市江南区外国籍市民懇談会　概要

日　　時：平成 25 年 1 月 29 日（火）　午前 10 時～12 時
場　　所：江南区役所　2 階 201 会議室
出席委員：7 名
　　繰　恵子（コーディネーター）、郭　崢（公募委員）、加藤　勲（公募委員）、
　　小林　咲子（公募委員）、崔　智慧（公募委員）、田　溶順（公募委員）、
　　ティモシー ヴァンカンペン（公募委員）
事 務 局：堀内国際課長、宮島主査、田村主査、遠山主査
傍 聴 者：1 名

意見の概要

1）近隣住民や外国籍区民との交流、地域コミュニティとの関わりについて

・亀田地区は、市内から少し離れており、外国人に対して変な考え（偏見）を持っているかと思ったが、意外にそうではなかった。ママ友とも仲良くしている。
・名前の漢字を日本語の漢字の発音ではなく、韓国語の発音で読んでほしい。
・事業面においても新潟の方々には本当にお世話になった。しかし、日本人の夫が亡くなったとたんに、外国籍であるが故に、不便、不都合を感じることが多くなって残念な思いをした。
・地域、近隣住民との関わりについては、文化面の相違を理解しあうことも必要であるが、それよりも自分の努力が必要。自分で乗り越えることのほうが重要。
・日本人との近所づきあいは適度な距離を保った、程よい付き合い方がよいのではと思う。
・新潟には外国人が少ないせいか、多少外国人差別がある気がする。

2）外国籍区民の子育てと教育について

・子どもが学校で「中国人、中国人」と言っていじめられたことがある。子どもに悪意はないが、気持ちの弱い子は精神的な傷を負ってしまう。実際にクラスのいじめが原因で、中国へ戻ってしまった子もいる。先生は優しくかばってくれる。
・韓国の場合、小・中・高校の 12 年間は大学入試のためにあるようなもの。家庭収入の半分以上は子どもの教育に費やされる。それに比べ、教育に関して新潟は自由。子どもの個性に合わせて教育している。
・「子育て支援センター」などの施設面、国などによる支援面も含め、日本で子育てができて非常に助かっている。
・子どもが将来歌手になりたいと言っているが、歌を習うことのできる場所が新潟のどこにあるかわからず、子どもをどのように支援してあげればよいかわからない。
　自由に歌を歌ったりできる場所があるとよい。
・娘が「ゆとり教育世代」。その時は楽でいいと思ったが、小学生の頃から塾に行かせなかったことを後悔している。中国の学校の先生は厳しく、思想教育もきちんとする。日本の学校の先生は優しくて宿題もあまり出さない。
・娘は生後 6 か月。日本で教育を受けさせることにするか迷っている。子どもたちに英語を教えているが、勤務先では日本の子どもたちに自然に接するように努めている。

3）その他

・社会保障制度（国民年金の加入、学生の免除措置など）について、外国籍市民に対しても事前に通知してほしい。
・具体的な制度の紹介について、最近はホームページを活用した告知を多用したほうがよいと思う。
・通知文書（公的文書、学校の通知文、回覧板など）にふりがなをつけてほしい。
・漢字が読めないことで、求職の際に差別を受けた。
・日本語がうまく話せず、仕事がなかなか見つからない。
・ストリートパフォーマーが自由にパフォーマンスできるようなスペースが新潟市内にあるとよい。

●出された課題を整理し、第 2 回懇談会（3 月下旬開催予定）では、市から行政の施策の現状、提案を示すこととなった。